

春を告げる浮世絵 — 小千谷の雛祭りと絵紙展 —

新潟県小千谷には、「ひな人形」を飾った部屋一面に色とりどりの絵紙（浮世絵）を飾る風習があります。

研究調査でたびたび小千谷を訪ねている文学部国文学専攻の鈴木俊幸教授の紹介で、小千谷絵紙保存会事務局長の横山久一郎氏の協力を得て、ひな人形と絵紙（浮世絵）の展示会を開催することになりました。

鈴木教授は、中央大学創立125周年記念として開かれた浮世絵展（たばこと塩の博物館）の総括監修をされました。この4月には、イギリスのセインズベリー日本藝術研究所で開催されるワークショップ「出版文化における浮世絵」で報告者をつとめられます。大学院文学研究科では、2014年度から「浮世絵学」の授業が開講され、平木浮世絵美術館主任学芸員の森山悦乃氏の指導の下、文学研究科の院生が学んでいます。

今回の企画は、このような文学部と浮世絵のこれまでの関係にもとづいて立てられたものです。

桜の咲く頃、旧暦の雛祭りを楽しんでいただければ幸いです。

場所：多摩キャンパス 3号館3階 3308号室

期間：2015年3月24日（火）～4月10日（金） 12:00～15:00

※月～金曜日のみ公開。土曜・日曜休

【企画】
中央大学文学部長 都筑 学

【特別協賛】
中央大学生生活協同組合

